ひまわりからのメッセージ

93号
2019.3.11.
NPOひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子

命について思うこと

今朝のことです。夫と散歩に出かけたわが家の犬のポポが「どうも元気がない。歩き方が変だよ」と、聞かされたのですが、私は名古屋の眼科に行く予定があり、「帰ってからね！」と、出かけてしまいました。

昼すぎに帰宅してみると、いつもなら尾を振って出迎えるのに、起き上がりません。正確には、起き上がれない状態になっているのです。右脚はダラッとして力が入らず、さわると痛いのか「やめて！」と言うように私の手を噛むまねをします。台から跳び下りた時に脚をひねったか、骨折かと心配になりましたが、かかりつけ医は休診で、仕方なく寝かせておくことにしました。ポポは高令で人間なら九十歳にもなるでしょうか。野良犬が産んだ仔でしたが、縁あって、我が家にやってきました。

今日は、三回も排尿の失敗をしてしまいましたが、私たちにとっては大切な家族でもあり、すいぶん慰められても来たものでした。

ただ、仔犬から成犬に、そして老いていく姿を見ていると人も同じだなあと思うのです。そして、その命を全うさせてやりたいと思います。

ところで、ここ二、三日、東京の病院における透析患者さんの扱いがニュースになっています。終末期でもないのに人工透析を外す選択を迫られて、多くの方が亡くなったと聞いて、心が沈みました。高山市での高令者への虐待も、以前に起きた障害のある方の殺害事件など、その思想の根っこは、同じでしょう。もちろん旧優生保護法も同じです。とは言え、この私たちも「できる」「できない」という尺度で価値を追い求めてはいないでしょうか。

二〇四〇年には、高令化がますます進んで日本社会は大きな転機を迎えると言われています。IT技術も進み、この先どんな世の中になっていくのか、想像もつきません。でも、老犬ポポを見ながら、生きとし生けるものに必ず訪れる死というものを身近に感じ、それぞれの命を全うできる世であってほしいと思ったことでした。

庭のクリスマスローズは、今を盛りと咲き、季(とき)をたがわずに咲く植物の力強さに圧倒されます。春ですね……。

支援の引き継ぎ
サポートブックの利用で気になったこと・あれこれ……

① 保護者の心配は？

「落ちつきがありません」。「集中力が続きません」・「人の話を聞いていません」等、行動面の心配が多い。「家では問題は感じていません」という方も結構ありました。

家と学校や園とでは、違う姿を見せるのは当然といえば当然です。「個」としての姿と、集団適応力を必要とする場とでは、違って当然でしょう。

園でも、「多動症」のお子さんが気になるのは当然とも言えます。姿勢は保持できず、周りの音や視覚刺激にすぐに反応してしまうので、集団行動をとらせようとすると、はずれてしまうからです。では、この子たちの予後はどうかと言うと、年令的に高学年位になると落ち着いてきます。脳の成熟とともに……。ただし、それまでに特性を無視した叱責が積み重ねられたりしなければ……です。

特性を理解せずに、他児と同じようにしようとして間違った対応をすることは、併存症（二次障害のこと）を引きおこしてしまいます。どの位の時間、集中できる子なのかを知っておくことがまず基本でしょう。その上で少しずつ待つことや相手にゆずることも学ばせていきましょう。「多動症だから何でも好きなようにさせておく」のではないことは心に留めておきたいですね。

話を聞いていない子の中には、ボーッとしてしまう子もいます。不注意もあってミスも多く、忘れものや片づけの下手な子もたくさんいます。お母さんたちは、「そのうちに出来るようになる」とおっしゃいますが、実はそうならないのが多動を伴わないADDの子どもたちです。大人になっても片づけられない、上司の指示を忘れてしまう等々就労して困ることが多いのです。どんなことでも小さい時からの積み上げを大切にしたいですね。

勉強について心配だとおっしゃる方は意外に少なかったのが印象に残りました。IQ（知能指数）やDQ（発達指数）がスマイルブックに閉じられているにもかかわらず、学習の基礎となる遊びの支援について園から話されることも少なく、保護者の方は「皆と一緒に楽しく」とおっしゃる方も多く、少し心配になりました。「一斉指示が通らない」とか「指示が三つ以上になると行動できず個別の声かけが必要です」と言われる子どもたちは、今後、学習での困りが出てくるか

も知れませんし、「絵を描いたりするのを嫌がります」という子どもたちは、書字の困りがあるかもしれません。学校側はLDの可能性も含めてしっかりと子どもたちを観て下さるはずです。

②保護者の理解について

自分のお子さんのことについて、よくわかっていらっしゃる方もありましたが、まだこれから理解していこうとされているのだと感じられる方も多くいらっしゃいました。スマイルブックを持って、子どものことを一緒に考えようとされている方はおそらく、スマイルブック拒否という方よりも、一歩お子さん理解に近づいていらっしゃると考えられます。

幼児期には、単に発語が遅いとか、姿勢保持が難しいとか、余り友だちと遊ばない等といった困りだったことが、小学校、中学校と成長するにつれて変わってきます。自閉スペクトラム症のお子さんは、義務教育終了後の方が困りが大きくなってくることが多いかもしれません。今年度も小→中学校へ「引きついでほしくありません」と保護者の方がおっしゃったり、担任の先生から「大丈夫です」と言われた生徒さんの中に、私としては心配だと思われるお子さんも相当数含まれていました。

誤解なさらないで下さい。私はOO障害などと決めつけるつもりは全くありません。子どもたちが成長していく過程の中で自己を確立していく時に、乗りこえていってほしいことは山ほどあります。そして、共に歩む保護者の方にも、それは同じです。自分の子を守ってやりたいのは当然のことですが自分のお子さんの長所も特性も理解せず「周りが悪い！」と言っているだけでは、お子さんを守っていくことはできません。理解してくれない人はいっぱいおられるでしょうが、理解者もいます。一昔前に比べたら、理解者は増えていると思うのです。子どもたちが社会で生きていくために、私たちは一人でも多く理解者を増やしていかなくてはならないと思うのです。

そして、保護者の方や大人の指示が無ければ何もできないというのでは困ります。自分のことを理解し、自分で意志決定していけるように育ってほしいと思うのです。その場合に、もちろん自分中心の一人よがりの決定では困ります。幼い時から、何でも自分の要求が通って、王様・お姫様に育ててしまっては、あとで修正は難しいでしょう。もしもお子さんが、常に「ぼくは悪くない！」と言っているようであれば要注意かもしれません。同様に「うちの子は悪くない！」と考えてしまっている保護者の方も、本当にそうなのか、状況を見直してみることも必要かもしれません。他児が叱られていても自分が叱られていると思ってしまうお子さんもい

ますから、どの様に状況判断していくのか、学ぶ良い機会かもしれません。周りとの折り合いのつけ方も大切な生きていく力ですから……。

「我が子はかわいいし、いくつになっても心配なものです。けれど自立に向けて親の方も少しずつ手をはなしていくことも考えていきたいですね。

③ 登下校について

子どもたちを取り巻く社会は、どんどん変わってきています。私が小さかった頃には近所のおじさん、おばさんたちに見守られていましたから登下校の道草やいたずらが結構楽しかったものですが、今は、犯罪に巻き込まれる恐れもありますし、友だちとトラブルになっても中に入って止めてくれる大人もいません。周りのことに注意がはらえずパッと走り出してしまったら事故にあうかもしれません。

「うちの子はよく動くし心配ですが、お願いします」と保護者の方に言われても、学校は「お任せ下さい」とは言えません。引きつぎ会で言わなくても各園で登下校についての話を保護者の方にしておいていただけると良いなと思います。小学生のお兄さんに責任を負わせられませんから基本、親さんたちが責任をもって見守って下さることだと思います。

④ 生活面について

子どもたちが将来生きていく力は生活の中でつちかわれていきます。毎日、朝起きて着がえて食事をして……という生活のリズムは、ついているのでしょうか。ずっとゲームをしていて朝起きられない子どもたちは、今後どんな大人になっていくのでしょう。心配です。

あるお母さんが「今はコンビニがあるし、別に食べ物はそこで買えば良いし、子どもには好きなことをさせてやりたいし…」と言っておられました。コンビニで買うお金はどうするのでしょう？子どもたちが大人になってもお母さんが養っていかれるのでしょうか？「いずれ大人になれば分かります」というのは無責任でしょう。子どもたちの発達には、一つ一つの積み上げが欠かせないと思います。小さい時から、お母さんと一緒に片づけたり手伝いをしたり、ゲーム以外の余暇の過ごし方を考えていくのも家庭の役割ではないでしょうか。「お母さん、とっても助かってる、ありがとう」と言ってあげることもお子さんの自己肯定感につながる大事なことだと思うのです。

四月のセンター親の会は、十五日(月)九時半～
奥の細道記念館です。